

本日はご多忙の中、多数お集まり頂き誠にありがとうございます。

地域密着型特別養護老人ホームを開設にあたり、これまでの経緯をご紹介します。

私は、平成7年（1995年）に診療所を開業いたしました。

その後、2002年に長崎ケア在宅ケア研究会が松坂会長のもとに発足した際、会の運営にかかわらせて頂き、これが多職種連携、地域連携の出発点になりました。

翌2003年には長崎在宅Dr.ネットが発足し、事務局長として全国でも知られる地域医療連携システムの構築に全力をあげてまいりました。

一方、診療所医師として訪問診療を行う中で、介護力のない等の理由で、自宅で最期まで過ごすことができない患者さんに遭遇することが何度かありました。

さらに、2007年NPO法人ホームホスピス宮崎が運営する「かあさんの家」という在宅老所を見学する機会があり、自宅に準ずる居住系施設で、介護を提供しながら看取りまで実践することに強く興味を持つに至りました。

済生会病院が取り壊される際に和泉元院長に「土地を売ってくれないか」と打診したところ、「切り売りはしない、まとめ売りならする、しかも介護福祉施設を作るのだったら売る」とのお言葉を頂いて手あげをさせていただきました。そこで私を2009年秋に複数の中から買い手として選んでいただきました。

どのような施設を作るか迷っている中、2010年7月広報ながさきに地域密着型特別養護老人ホームの公募がでていたのを偶然発見し、特別養護老人ホームは社会福祉法人しか手あげできないので、急遽社会福祉法人を立ち上げ、手あげしました。この際も7つの施設の手あげの中からご選定頂き、2011年7月より建設に取り掛かり、本年3月上旬（つい10日程前）になんとか竣工にこぎつけました。

土地の購入、社会福祉法人の立ち上げ、唯一の追加公募・特老への選定、限られた日程の建設、40名弱の職員の雇用など、これまでに経験したことのない困難の連続でした。

これらを乗り越えて今日を迎えられたのも皆様方のご支援の賜物と深く感謝しております。

特に設計を担当したダイヤモンド設計様、山下建設様には素晴らしい建物を建てていただき心より感謝申し上げます。これから入所者が入り、併設する通所系、訪問系サービスがスタートします。主役は利用者であり、それを支える介護スタッフの皆さんです。私は主役の方々を盛り上げるべく縁の下の力もちに徹したいと思っております。

施設は地域密着型の特別養護老人ホームですので、片淵、新大工地区に開かれた施設に育ててまいります。1階には地域交流スペースを設け、広く開放してまいります。

本日お配りしている樋野先生の市民公開講座を皮きりに腹話術、ハンドベルなど多彩なイベントを計画してまいります。

利用者も可能なかぎり、地域の商店街にお連れし、住み慣れた地域での生活を継続、実現したいと思っております。

また、障害者の就労支援を行っているアビのパンや、新大工商店街の花屋、雑貨屋さんにも施設で週1回程度の訪問販売に来てもらう予定です。

1年後には隣接地に地域ふれあいセンターと公園がオープンいたします。

付近一帯が地域包括ケアの要として、介護予防から医療・介護、福祉の提供、そして看取りまで取り組んでいきたいと思っております。これからもご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。